

- 5月末～6月初旬に畝1m当たり10本を一括立茎する慣行栽培では、高単価の6月に収量が激減し、収益性改善が課題。
- 革新支援センターが中心となり、5月末～6月初旬と7月下旬～8月上旬の2回に分けて畝1m当たり5本ずつ立茎する分割立茎の実証を普及指導センターと協力して実施。
- 8月は減収したものの6、7、9月の増収効果が認められ、粗収入が増加。

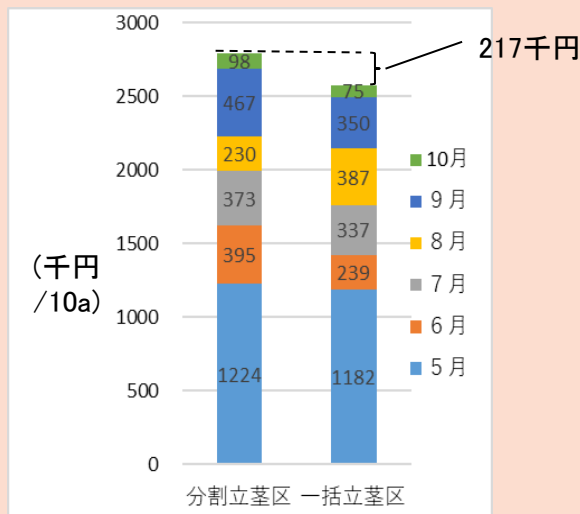
具体的な成果

1. 分割立茎の有効性を確認

- 当年の月別収量が変化し、6月、7月、9月増収、8月減収により、粗収入が217千円／10a増加



1回目立茎(青ラベル)の間を2回目立茎が伸長



当年月別粗収入

- 翌年の株の萌芽能力は、慣行と同等に維持できていることを確認

普及指導員の活動

令和2年度～

- 革新支援センター、普及指導センター、研究所等で「アスパラガス分割立茎実証チーム」設立
- 実証、調査方法の検討
 - ・実証農家の選定、調査項目、方法を協議
- 現地研修会の開催
 - ・全農、JA、県庁農産課を招集した現地視察会を実施
 - ・普及指導員で現地検討会を実施
 - ・分割立茎の問題点を把握
- 結果の取りまとめと報告
 - ・実証成果のとりまとめ、全農、JA、普及指導員に報告
 - ・関係者で改善すべき点を協議
- 生産者への周知
 - ・普及指導センター、JAを通じて生産者に、技術と注意点を周知

普及指導員だからできたこと

- ・革新支援センターと普及指導センターの協力で行った調査研究に、全農、JA、県庁農産課も参画してもらったことで、生産者はもとより、関係機関全体で意識が醸成され、問題解決に向けた協力体制が構築された。

岡山県

露地アスパラガスの立茎法改善による収益性向上

活動期間：令和2年度～（継続中）

1. 取組の背景

岡山県では、県下に広くアスパラガスが栽培され、県の重点品目としても推進している。栽培の大半が露地栽培であり、慣行では、春芽収穫後5月末～6月初旬に畝1m当たり10本程度一括して立茎するが、この場合単価の高い6月に出荷量が激減し収益性が悪くなる。一方、6月に収穫を続ければ、株が消耗し立茎できなくなる恐れがある。そこで、株の消耗を抑えつつ6月の収量も向上できるよう、必要本数を2回にわけて立茎する方法を検討した。

2. 活動内容（詳細）

矢掛町の生産者ほ場において、令和2年に畝1m当たり必要本数10本を時期を2回に分けて5本ずつ立茎する分割立茎の実証を行った（表1）。実際の立茎は計画と若干の差があるものの概ね計画どおり進められた（表2、図1）。

表1 区の設定

区	1回目立茎 (5月末～6月初旬)	2回目立茎 (7月下旬～8月上旬)
分割立茎区	畝1m当たり 5本	畝1m当たり 5本
一括立茎区（慣行）	畝1m当たり 10本	なし

表2 各区の実際の立茎

区	1回目立茎 (5/26～6/6)	2回目立茎 (7/24～8/10)
分割立茎区	畝1m当たり 4.8本	畝1m当たり 5.4本
一括立茎区(慣行)	畝1m当たり 11.2本	なし



図1 分割立茎区（8月3日撮影）

3. 具体的な成果（詳細）

（1）当年の収量

実証当年の月ごとの収量を調査したところ、分割立茎区は一括立茎区と比較し、6、7、9月が増収し、8月が減少した（図2）。6、7月の増収は1回目立茎の本数が少ない影響、8月の減収は2回目立茎を行った影響が出たものと考えられた。9月の増収については原因ははっきりしないが、9月時点で2回目立茎の茎が若く病害が少なかった（図3）ため、光合成量が勝り収量が高くなった可能性も考えられた。

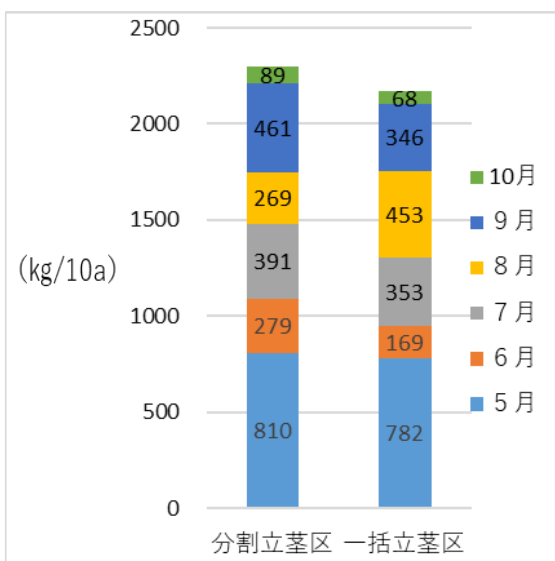


図2 当年月別収量



図3 左：分割立茎区、右：一括立茎区（9月17日撮影）

（2）当年の粗収入の比較

月別収量の結果を基に、市場単価との積算から、両区における粗収入を試算した。分割立茎区の粗収入は、一括立茎区より10a当たり217千円程度の増加となった（表3）。

表3 当年粗収入試算（5～10月）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
市場単価※（円/kg）	1,511	1,417	954	855	1,013	1,105	
分割立茎区収量（kg/10a）	810	279	391	269	461	89	2,299
分割立茎区粗収入（円/10a）	1,223,910	395,343	373,014	229,995	466,993	98,345	2,787,600
一括立茎区収量（kg/10a）	782	169	353	453	346	68	2,171
一括立茎区粗収入（円/10a）	1,181,602	239,473	336,762	387,315	350,498	75,140	2,570,790

※岡山中央卸売市場岡山県産アスパラガスH27～R1平均単価

(3) 翌年の萌芽能力

分割立茎区の実証翌年（令和3年）の春芽（4～5月）の収量を調査したところ、一括立茎区と同等であった（図4）。このことから、分割立茎は一括立茎以上に株を消耗させることはなく、翌年の萌芽能力は同等に維持できていると考えられた。

以上の結果から、露地アスパラガス栽培において、今回実証した分割立茎は、収益性を向上させる手段として有効と考えられる。

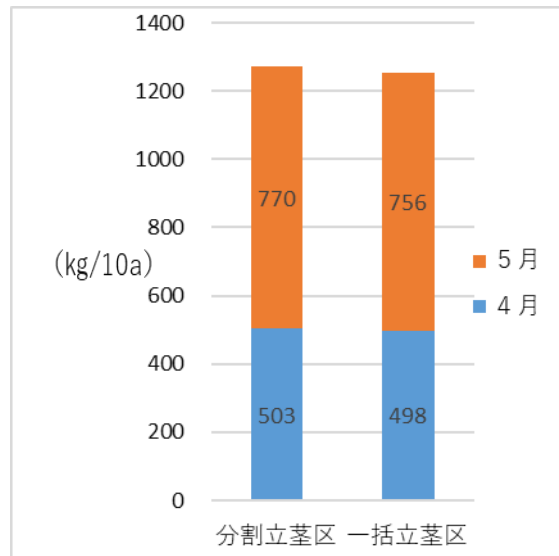


図4 翌年春芽収量

4. 農家等からの評価・コメント（矢掛町N氏）

分割立茎することで、収益性は向上したが、問題点として、2回目に立茎した茎が1回目に立茎した擬葉の中を伸長するため、曲がったり折れたりする場合があります。特に定植から年数が経っていない圃場では、萌芽場所の範囲が狭いため、よりその傾向が顕著になる。ある程度年数が経過した圃場で行うのがよいのではないかと。

5. 普及指導員のコメント

（井笠農業普及指導センター 主任 川上壮平、技師 細川真里那）

当年の収益が向上したのは成果としてとらえている。しかし、分割立茎では、2回目に立茎した茎の斑点性病害の発生が遅く秋期の擬葉がもっと青々と健全に確保でき、その結果、翌年の春芽が増収するのではないかと期待したがその効果は出なかった。一括立茎では、立茎期に病害の徹底防除を行うが、分割立茎では、2回目立茎への徹底防除が難しいため、発病程度に大きな差が出なかったのではないかと。

6. 現状・今後の展開等

栽培経過年数の進んだほ場を中心に分割立茎の試験的導入を進めながら、効果をさらに確認していく。また、2回目に立茎した茎の病害対策を検討する。